

シラカバの恵み

旭川発 官民の挑戦

④

食に美容に「万能材」商品次々

旭川市内で19、23日に開かれた家具とデザイン祭典「旭川デザインウィーク」(ADW)で、主催者の旭川デザインセンターに設けられた斬新なブースが来場者の注目を集めた。白と赤みを帯びたフロリング。切り株を中心に据えて周囲にカウンタや棚が配置され、優しい風合いの家具、食器、籠などが並ぶ。

旭川デザインウィークで設けられた白樺プロジェクトのブース。家具や食器を並べ、シラカバの可能性をPRした(打田達也撮影)

■豊かな資源

旭川市内で19、23日に開かれた家具とデザイン祭典「旭川デザインウィーク」(ADW)で、主催者の旭川デザインセンターに設けられた斬新なブースが来場者の注目を集めた。白と赤みを帯びたフロリング。切り株を中心に据えて周囲にカウンタや棚が配置され、優しい風合いの家具、食器、籠などが並ぶ。

道内で伐採されるシラカバの約9割は製紙用チップ材として使われ、家具材や建材としての評価は低い。直径が30、40センチで板材として限界があり、強度が足りないなどとされているためだ。チップ材としての市場価格は1立方メートルあたり9600円と、同じ広葉樹のナラの丸太と比べて4割程度だ。

旭川市内で19、23日に開かれた家具とデザイン祭典「旭川デザインウィーク」(ADW)で、主催者の旭川デザインセンターに設けられた斬新なブースが来場者の注目を集めた。白と赤みを帯びたフロリング。切り株を中心に据えて周囲にカウンタや棚が配置され、優しい風合いの家具、食器、籠などが並ぶ。

ただ、シラカバは火山噴火後の荒地地でも、最初に根を張るほど強い生命力を持つ。樹齢は約60年で、百

旭川市内で19、23日に開かれた家具とデザイン祭典「旭川デザインウィーク」(ADW)で、主催者の旭川デザインセンターに設けられた斬新なブースが来場者の注目を集めた。白と赤みを帯びたフロリング。切り株を中心に据えて周囲にカウンタや棚が配置され、優しい風合いの家具、食器、籠などが並ぶ。

数年とされる他の広葉樹と比べて成長が早く、再生サイクルが早い。プロジェクトはこうしたシラカバの可能性を探る。

旭川市内で19、23日に開かれた家具とデザイン祭典「旭川デザインウィーク」(ADW)で、主催者の旭川デザインセンターに設けられた斬新なブースが来場者の注目を集めた。白と赤みを帯びたフロリング。切り株を中心に据えて周囲にカウンタや棚が配置され、優しい風合いの家具、食器、籠などが並ぶ。

美深では毎年4月、白樺樹液春まつりが開かれ、独特の甘みがある樹液がお茶やコーヒーとして振る舞われる。ロシアでは樹皮を使

旭川市内で19、23日に開かれた家具とデザイン祭典「旭川デザインウィーク」(ADW)で、主催者の旭川デザインセンターに設けられた斬新なブースが来場者の注目を集めた。白と赤みを帯びたフロリング。切り株を中心に据えて周囲にカウンタや棚が配置され、優しい風合いの家具、食器、籠などが並ぶ。

った小物入れが伝統工芸品になっている。このほか化粧品や茶葉、糊(ちりめん)にも使われ、「万能材」として大きな可能性を秘める。



旭川デザインウィークで設けられた白樺プロジェクトのブース。家具や食器を並べ、シラカバの可能性をPRした(打田達也撮影)

は神様からの贈りもの」とほれ込む。ADWの展示に向け、樹皮を削り取る特注機械を120万円で購入。円筒形の木にシラカバの樹皮を巻いたスツールが「切り株みたいでおしゃれ」と評判になった。

◇

■可能性探る

美深では毎年4月、白樺樹液春まつりが開かれ、独特の甘みがある樹液がお茶やコーヒーとして振る舞われる。ロシアでは樹皮を使

った小物入れが伝統工芸品になっている。このほか化粧品や茶葉、糊(ちりめん)にも使われ、「万能材」として大きな可能性を秘める。

が本格的に始動した。材木として重要視されてこなかったシラカバを、旭川や近郊の官民有志が知恵を絞り、豊かな資源として活用していく挑戦を取材した。(五十嵐俊介が担当し、2回連載します)

美深では毎年4月、白樺樹液春まつりが開かれ、独特の甘みがある樹液がお茶やコーヒーとして振る舞われる。ロシアでは樹皮を使

った小物入れが伝統工芸品になっている。このほか化粧品や茶葉、糊(ちりめん)にも使われ、「万能材」として大きな可能性を秘める。

が本格的に始動した。材木として重要視されてこなかったシラカバを、旭川や近郊の官民有志が知恵を絞り、豊かな資源として活用していく挑戦を取材した。(五十嵐俊介が担当し、2回連載します)